

失敗学 フォーラム

2026

オンライン開催
2026.11.27 金

集まれ！
失敗学ファン

上へ！上へ！



日科技連では、2007年に濱口哲也氏（元 東京大学 大学院特任教授）を講師として、「失敗学と創造学セミナー」を開設、その後、2018年に「失敗学実践編セミナー」を開設しました。それまでの「問題が起こった後だから言える結果論的対策」や「対策反転型原因分析」ではなく「本人がリアルタイムで大丈夫だと思って行動したはずなのに、なぜ、裏目ってしまったのか（失敗にゴールインしてしまったのか）」という「起承転結型原因分析」を学ぶことができる場として多くの企業に支持され、今日では業種・職種問わず多くの企業で失敗学を実践されるようになりました。

第3回目となる今回は、失敗学の山を高くする活動から、裾野を広げる活動に重きをおき、各社で失敗学を導入、指導経験豊富な講演者（企業講演3件）を迎える予定です。また、前回と同様に、濱口哲也氏による一問一答コーナーをお届けいたします。

普段、セミナーの中ではなかなか聞けなかった質問にも忖度なく、ズバズバお答えいただきます！

「すでに失敗学を導入している企業」はもちろんのこと、「これから失敗学を導入したいと考えている企業」あるいは「失敗学に興味をお持ちの企業」、原因分析のやり方に悩んでいる方、再発防止・未然防止が上手くできず苦慮している方など多くの方にとって参考になる年1回のイベントです。

皆様から多くのご参加をお待ちしております。

日時 2026年11月27日（金）13:00～17:00（予定）

開催形態 ライブ配信（Deliveru）

参加費 通常申込：22,000円（会員）／24,200円（一般）＊税込

大口申込：550,000円／社（会員／一般ともに企業単位・人数制限なし）＊税込

お申込みはホームページより受付中！

<https://www.juse.or.jp/src/seminar/subpage/495/3/1442>





遠藤 将夫氏
株式会社神戸製鋼所

【企業講演 1】

「失敗学導入と定着の仕掛け —神戸製鋼所 機械事業部門の取り組み—」

失敗学は未然防止に有効な手法であるが、組織への浸透・定着には工夫が不可欠である。本講演では、神戸製鋼所機械事業部における受注設計生産型ビジネスへの導入実践を紹介する。設計・製造における視点の違い、設計・製造部門の意思決定プロセスの可視化、安全活動への展開に加え、「想定される未来の不適合事象」を起点とした段階的導入や生成AIの活用など、試行錯誤の取り組みを共有する。

【企業講演 2】

「JSRにおける失敗学の取り組みについて」

本講演では、JSRにおける失敗学導入の背景と経緯、およびこれまでの失敗学教育の取り組みを報告する。さらに、各部門で失敗学を取り入れやすくするための仕掛けやきっかけづくりを紹介する。続いて、現場での失敗学導入事例として、従来のヒューマンエラー低減活動との違いや具体的な活動内容、導入時の工夫と苦労した点も含めて得られた効果と現時点での課題、今後の展望を述べる。



山下 裕三氏



石井 諒氏

JSR株式会社

【企業講演 3】

「キャノンマーケティングジャパンにおける失敗学の取り組み事例」

2021年当時、クレームを撲滅したいと考えていた中で“失敗学”に出会い、弊社の報告書が結果論の原因分析と決意表明に終始する“へっぽこ報告書”に陥っていた実態に気づかされた。

これを何とかしたいという思いから、濱口講師を招いて組織で学習する取り組みを開始。当初は理解が進まず試行錯誤が続いたが、現在もなお発展途上ながら、失敗学を全社共通言語として浸透・定着させる取り組みを進め続けている。その背景と、現在までの歩みを紹介する。



田村 暁氏



早乙女 功氏

キャノンマーケティングジャパン株式会社

【Q&A】「濱口氏による一問一答」

コロナ禍後、リモートでセミナー・講演を行っており、質疑応答の時間が十分とれていない状況です。一問一答の時間では、「聞きたかったけれど聞けなかったこと」や「聞いてみたいこと」などの質問事項を事前に募集をし、限られた時間の中で忬度なく、ズバズバお答えしていきます。あっ、プライベートな質問はNGでお願いいたします笑。



濱口 哲也氏 株式会社濱口企画

【総合討論】

登壇者：上記企業講演 登壇者の皆様

モデレーター：岩松 正治氏



岩松 正治氏 AGC 株式会社

■お問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟

品質経営推進センター 品質経営・SQiP・MS・QCCグループ（失敗学フォーラム担当）

E-mail : quality-kensyu@juse.or.jp

